

扱も不慮議あり我も狐のま似して免状を請術を以て人
を誑して見んと思ひ着るる筈をくちくと巻きくる居座
投紙して二人お連れ社匠より上り此由を中へ内陣より童
子二人立出一人は三方より土器振持出一人は白銀の鉋子持出
右左近は赤太郎式屋して土器を取上げ三度戴き此を
見れば熱々の白酒あり三献して左近は童子是を内陣
へ持入り又持出赤太郎より前より童子赤太郎思ふは是を吞まは
赦免の状を得るなり成るよし是を吞み免も角も成るよし
土器を三度戴き吞みしに味ひ甘き語の如し是を吞み三献
吞みし童子土器を内陣へ持行少時有り老翁立出

是は赦免の状とぞ彈菖の根ある物を長サ五寸程より折曲満と
かきけり物と手の中へ握る程の水晶の如き珠と如意寶珠
と名付は二品を下する天頂戴して立歸り多くは如意寶
珠は縦へいかに着る者にも身を変せんと思ふ時寶珠をくち
きりて観念を此の神妙不思議の方便なり扱赤太郎が
娑婆と見えしも寶珠をくち観念を此の姿となりて
旅者へ傳へり中相諒て左近と共に歸り赤太郎天童
へ傳へし始終傳へられし是は赤代の子なり此城の
守護神と成るよしと社領を召延り玉ふ子孫繁榮して代々
守護しむるなり依て此を加繁いとしあり